美乃一國

郡名帳

貴 12
881
21

宮内省図書寮

槿

奉乃名の事　仮宮奇と初とをとして号せると源氏世一系
の九月ゝとをを乃末とこのゝとあり宮ハ内大臣落ゝを奉
乃末此年也同ゝ也奇奉
乃ゝ行ゝ此落ゝとゝ槿乃花のちりかゝるやうなるゝ
細同

奇院ハ法ゆくゝみゝくゝゝとある法ゆくゝまいのゝ
そめつゝゝゝゝゝゝ　仮宮　槿乃奇院ハ桃園式部乃ゝ
桃園式部ゝ乃ゝ
ゝゝに奇院の乃ゝゝに立給雲井に又宮の法服
ゝゝとして奇院と行ゝゝ　第末世ゝゝ源氏
法ゝとゝ法ゝゝ又ゝゝゝに宮ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ槿乃奇院宮桃園式ゝゝ女又女殿仕ゝ宮三宮
ゝ通宮　細　藤壺乃ゝゝの事に式部ゝ女ゝゝ

宮内省図書寮

あり。ゆゑ成へし。河よる延喜帝此のことをひきうけ
雅樂の例如へし。母宮一代は一度かぎりなる也。母院と
ゆゑ方に所あまたなり。代始はようきゝたる也
はゝをみく 宋 源氏ハうそめかも法ゆゑを給ひとをあ
ゝ長恵給ふあるとゝ法ゝをとゝ也
法ゝひるといとまきうゆゝし給ふ 仮 父宮のゝとゝ
ひるゝこはゝくゝさひくゝはゝひく給ふゝ也
宮ゝゝゝゝゝゝゝゝとゝはゝせゝはゝゝゝゝゝを
て宋給ふ 宋 光源氏を桂乃宮のゝ也
いとゝちゝ〳〵也〳〵ゝ 仮 源氏の御心也
七月ハ成くゝゝの宮ゝゝゝゝゝゝゝゝ

はるかにきこえてのすゑをんなみて位給ける　仍宋
ハ榮宮宋　女五宮位給ひ　相帝よりとの女
めの御連枝なる故なり　女五宮とハ也　源乃はるか
は姨なり
ほとゝぎすなくあまたに聞なれぬ　ちゝ　あはれなをこひ
やうなり　細　式ゝ宮薨給て　ほとゝぎすに　たとさ
後なり　うちつきにさひしくもあるかな　なを
もめなれぬ宿をいろあるまつ　乃也
宋　式部ゝ卿　男　日なるゝ　ゝ　也
宮たいめんし給てはものゝ　と　宋　給　いと　めるめ　に
なりは　ひとゝ　ひとゝ　さう　ふ　ゝ　宮　宋　を　女
女なるへし
このゝちにおもをれとなたち　大後の宮ハあるゝまゝ　ゝ　ゝ

ものゝ　仍　菱上の母女三乃宮也　は女
五宮なるとハ御年さ　ゝ　給へ　ゝ　ゝ　給也
母ゝハ後住大后のゝ　也
もてなされ　ゝ　ゝ　ゝ　給へ　る　も
宋　光　女五宮のゝとを源氏ハ給へ　ゝ　もてなされ　也
きこえ　文　也給　ゝ　ゝ　ハ常に年
あるとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仍　年の程
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　也
ゝ　ゝ　宋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
年　ゝ　ゝ　也
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
宋　女五宮の祖母帝の御ゝ　也

仏宮寺へかくうちをとて給へれたふみくあるうるはくにと
まるとゆをとくたちうるとを給まるん物ゝまゝこのへ
をもゆりをやをゝ給　仏宮　宋　式部卿宮のるゆ　俗男丸
うのをうちうへあいつう
うくくもゆるを給へうるうれとゆもへをうちうゝこまりて
於　源氏乃宮仏ゆ　ゆり給とハこれとゆを宮みくまゝ
まゆをゝかゝゝゆゆ　細
源のゝうちに御幸れうるたうるゆを給ゝゆ
俗うれ行て娘ハうるくにつをてあるゝせのやううる
俗ゝを　細　色うるを源乃羽ゆ
打ゆゝゆはゝにあうるを俗りてゝゝぬゝにまゝひ俗ゝ
を　於　宋　源左遷乃うるゆを治行ゆ　細同
をゆ俗くゆゆゆゝにまゝりてハ又　細　海京

ゝ俗りて色又改乃ゝいゝうるゆとゆ
ゝるゝ乃ゝうるゝいゝ俗ゆくてゆゝ仏ゆ色ゆ寄りてゝみゝゝの
俗物語をゝに仏ゆゝうゆを給ゝりぬゝを　宋　元孔ゝとの羽ゆ
ゝりゆをゝゝ給へうるゝゝあんうるゝゆゆゝを給ゝゆ
宋　仏ゝゆをうくゝ会ゝとの羽ゆ
ゝゝゝくゝゆさゆゝくゝゝふゝをてゝゝうるゝゆせ
とゝ打るゝゝうるゝゝ乃給へゝゝ　於　女五宮羽ゆゝゝ
ゝゆをゝハ家ゝとの仏ゆゝ仏ゝゝにゝゝをてゝゆゝハ桐帝桃式
源氏左遷等乃ゝゝとゝ孔合ての給羽ゆゝるゝゝ俗
ゆゝゝ三人ゝゝうゝ打るゝゝゆをゆの完ゝるゝゝとの仏ゆ
細　女五宮の羽命ゝるゝ俗のゝうゝひゝゝとゝ乃ゝと
乃ゝゆ俗ゝゝうゝゝゝゝゆゝゝ
命ゝるゝゝのゝうゝゝゝゝ

をうばはるるはうちうちひとあんん　細　今立後行てくちうへ行とん
ひくあるふうつう　細　今立後行てくちうへ行とん
後はしく命ちうさもうこひあるやうに後るとも
あるもし幸はとりもちうはいはいうまもう
とおはしく後るやうちわるくき行て　於宋　源氏を遷し
行間は若女又宮世ふるくあう行てくとの後京れ院
を見さし孫ちてくちわいくんとの仏也
いとうちうに後ひはちう孫は者うれるいに物へ行へ
つまいとりをもそめいとに孫ひるとのうておそ
しあるちくおとうは後ひを　いとさうう
細　さいもひて源を問め後也　於　を人の後也
とうくくりをもうこに　宋　りをもうあるはへ
なしをおひし後てちん　於宋　源氏後はせはもくは後

をうはるるちうちうれ祥後はとりをはのうもと
はうんうとあるくあまうとうるもにおひし後うとも
門うへちんいとうく後をうせ孫うるやうくうやあうと
宋　面白つや　細　冷泉院源はは孫は後とも
さうとうとおとうは孫へんとうとうとうとうると後れと
細　源はおとうと孫へいとうとうとうとうとうやも
あうくと宋し孫へと　宋　ナカクやも
おとにはいいひくくへの問ものあぬわさうれとわいをおひも
於　源の仏やとにとはうやうにとの仏也
山後はあうてうとうひうとれ後へ年はの後ちうる
おとうへみて後るおと　細　源の河を後ちとのやうれや
うちのはうるうちはうをうせうとあへ物へちうやとうそ
あうとおくくりをもうれ　於　冷泉院は若のせみとあるれか

とのはらうちもとも

あやしさはとうちもるとにあんと学ぶ　於宗　女五宮の

源氏うへ冷泉院さうとおもうぶんとの給とて

きけはあるうちする推量うとの也　細　内もとも

とうと給へうんとうへ　女答也

時と乃ものうち　細　女宮御方源氏御乃ものうち

のゆも　宗　あひさりも

ゆうき今やのひ給へんうつ　とおもうきせ乃

事をみるはうぬるうちもんとても　宗　とはへ今也

にとの四也

又あの給　宗　ものをはうへ

三宮うへやまへをはうへさはゆうとそひうきうへ

乃ものう給ふとうへやうと給る　於宗　三宮と八条上の女

乃ものも女の大姫ものへ　はうへさはゆうとやうと源

氏と舞に乃給へく結句夕雲はへ出事給てきへ

へ乃ものう給ふと義とも

このう歌給ぬるとさやうにてそうあ給ふ行もへあり

うとの給みて　於宗　式アヘ乃とも源氏と舞に乃ものうんとと

懸梅給しゆもさやうにてとハ女五宮のうひ給やう

にの給へとのうへうも　細　式アヘ宮も槿歌院と源る

嫁しうとのへわるひうと給へ事也

ものうへ乃へうもうと給　於宗　槿宮の右うとはんうを給

乃ハ今女五の式アヘ乃はんとうへうと給る耳あうへ

うへ給とうへ乃也　細　弟の物語とにうへうへうもと

も給へにハ一言る事耳とうへめ給也

はうとはうへひるれうもうへ今るとうへうさまうに給へま

〻 仏式アの舞に如給ハ源氏とをやうに侍〻まし
と乃はるゝ也 ゑハ初也 細 源の初さと侍〻そう給〻
うゑハさゆゑ也
みるかゝ〻そ侍てとうゝあ〻ゆふ〻〻たゝ〻ゆ
そ給ふ 仏宗 檀宮とそ〻めてそ侍るゝ給とゆゝ〻ゆ
うとゝそ侍〻たゝ〻そとのゆゝ也 細 うとゝくしく
そ給とゝ〻
あるゝこの御まゝとアゝやゝと給へそ 宗 檀の位西臺と源
氏ゝやゝと給也 細 打ゝ
れゝゝゝる系載乃ゝゝゝ

宮也 法皇乃宣旨なりとて 細 母院宣なる也
法せうこ八世の也 宋 源氏ゝ物 撰宮へ法せう也
ゆゑ乃ゝひとゝゝき 細 ちもるみをの第れ
乃宋 源氏ゝ物ゝこの初也 我と所ゝの事なるとの也
細 簾中へも参り給へきあとあまるとにうゝし
きとの給へ也
神さひよある年月乃らうめうへられ給ふに 乃宋 撰文
とゝくゝゝ思ひけたる幸乃ゝとゝ
河 神南又神宮 同雅 自式紀
なゝ
と集 神さひある也 ゝ乃河ゝ思ふに拍の拍
ゝゝるゝ也 宮字也 ゝめゝ
き心よ八叶へ 後城々六百番歌合 列河さひて

ゝそ也ゝ乃ゝ 廣義乃ゝ ゝゝ也又同人家應任去の歌合
乃列の初ゝ也 ゝゝ河ゝ ゝゝ
乃ゝ ゝ紙ゝ ゝ
八劔刀 ゝ ゝ 又郷 ゝ
ゝ ゝ ゝ
ゝ也 ゝ ゝ
ゝ八乃乃 ゝ
寿 久恵 暴乃乃 細 原のゝ
ゝ也
今 ゝ ゝ ゝ
宋 ゝ ゝ
ゝ 宋 云曲 源氏乃乃 ゝ
乃ゝ世八ゝ ゝ ゝ

やとこの行人はらめかくはるに　乃宗　權乃亜吾也古れと
ハ法華経ハ人をなされて只と先くるやうにかの経
ことを今ハはるも経宮はるやも　経ハもくてとす
くちるふの経也　元文官乃はるやそ　細　内ようとの
亜吾也毋虎みてはりをしてとるとハひとくちるとも
経うちとハまひるやはるくめ学くさすくうはんときて
えくくはりう　宗　そくるハ通てれるやの経の權乃ん
ありう　細　年月乃形ちくハ思ちくはるも
きにくそはるめくれせるれとくれさ事につきても
はしはきくる　乃宗　経宮世ハの経くく微よと合
跡をくるきにやくれさくとにつきてもやハ文宗ちも
の失経よ分て美ものはくくるこの源氏乃はるも
人をにて神乃ゆくくとまはるにまにくる通れるれ世とくくはれ

乃宗　源氏毋虎みてくハ男女乃をくくはるもあるあり経
と法とのんくれくく神のゆるくと給くくハくりそれ
同ふ我んつれるくはるれせとくくひとのかくよりと
細　年月毋虎みてくはりをくくはらめをりくくひとくひ
後ゆるくとにくハくれるくはるくくとくくるくと神乃ゆる
とくを續経はくくるもくくくはきくれくくはくくくく経
而せくとくるんくりり
いはるるふのいくめりかくくくを行りんくくくくん
くくや毋虎ハはりくくおくくせる経くく神乃りくくあるもあくし
いくくくをはくくかくくくをにの経りんくくとの源乃祖也
細　くくハくくくを経へくくくく

あれかしこれ 細 ひとへに行ふるもを振ハもてさうまうしき
ものとなれ物とも 仮 左遷なるも
ひてかさりとをとにとあるうらに中ゝ行ふ 実 そを語も
いつくとも思あれかしるものとそのうらうらとたふ〻食
とあれらにの語也 細 人倫あゝてきこゝやの物也
ものゝいちもとをもひてゝうとをもいはとうゝあるゝきこ
をたへこゝひ語ひうけると 仮 実 源氏の語をとはめたて
まうる宣旨ちとう詞まやや
ちるらにとゝてうるゝ行人をは位の頃とにハあるとさあるを
仮 もゝし語ハ源氏の移ひもゝし語也 侍位の頃とゝハ
いはの内大臣也大臣ちとハふるも年をもをたるうよ
きことあるをこれおゝ移ひうゝ語とハいひあるう
うまうりゝしきかるまうゝ里語とは位の行るあるハ

ぬをいふ也 細 富法ちとこれてある語ともを位ちるとん
年わゝ乃こ語ものを乃ちの物人をの也
ちるへあるの表ちうをとうゝにちひゝとゝ神やうさ物む
仮 実 桂乃区ちるれせのを表とをとをとひ語ととつ
きう宮れとを神ちうひゝるハ今ものるたうも
神をんさあ行人をもいさあハ杉横ちゝ云物に西する也
細 世中れ表ちうをとんひうゝ語をも神をもゝち
ちひゝまゝにゆゝ語まゝ堅固ちんひうゝち語也
也ちあまをとはるゝ物ちうの世れはゝハをちるとの風ちをくへて
きをとの語 仮 実 源氏の同ちるも吹風をいふと
ちう一流ち成実乃ものちう吹風とちう仏国ハ伊勢語ち
のうゝ語国也物ち朝宮のゝ深ゝてをちうきものゝ
ものち代代風吹ちゝ物也ちをとへてをを西の場ハを

風の外者八ちまと吹れしくとハ神とのみてのの給ふ
樹下集 歌をうたふとうたふ
河 先代旧事本紀云 伊弉諾尊曰我下生之國唯有葦原
而蒸満矣乃吹撥之氣化為神号曰風神風神名
級長津彦命次級長戸辺神 科戸風
あいてやうとてうれ 第 源氏乃はさ海あつきやうとて
ゆうてやあり
乃ちてもゆ神をんく侍ると 於第と業あるとし
世の羅八塔ちるとの風よりくをて強くちるくはまと
ゆるゆ(ミツキ)の強(ミツキ)ハ神もしう者給とあやしんとも同物り
侍るゆ乃強也又流氏河八宣ちう河
古歌ちとてしと川ちてしに後神ハうをしたとあるとたけ歌
細 源の河 歌をし北強と神ちう者もてやうんと乃ちく

はまとあ〜ゆてんと乃ちく八羅力〜ゆちあたる物也
ちうれさことちとゆるもしあやうしきらとかさ〜〜〜
於 源氏乃んやうに古歌ちとの物とも物ての給を秘ふ
うまことにかさ〜〜〜〜〜
ちうれ沙を花八と〜月ちうんあを物ちうくれをひきうう
約ひちうん沙ちうん強ちあと 細 氏歌後八人ちう者ちうくんちうひ
ちうくのひちうれちうしゆ 於 河八種歌乃ちうちとん
なあ歌ちとの歌ちるちうくん
乃ちちうちうやり 於 種宮乃ちまと宣ちうとう後ちる
河也年月ちうくいちうゆちうく斜歌ちうちふものも
えの給ちあとちてちるやむとゆ人とハ源氏ち同物と
てうれはちとの給ちとあまちとにつれちくまうしまひを
乃ちゆ 細 ちうゆ人ちうの乃んちまうるやむゆ

きえぬしるやうにすりぬるとるすに濃とうるもとうもち
歌をでたちなりつるひのはるとみて 孝家 紅色のやう
に紅なるもさみくいあるもたるもたるのもとみてとう
らひさつる紅とと濃くに紅なるもと 細 と雲を
人のとつをとりひてたちなりも
物をるくこそるわさられ 孝家 年ふれと人を面は道
をくうやうにさわて物うみとくこと此源氏の物也
細 かくれもしるにくくと面白すくと紅たる初也
せるさくめ屋つきとんくうやうにかくしたすへるやなて
ちくなりとて出なり 孝家 いまるくさめなりとうとなと
はとて感めなりとうとの物也せるさくぬやつれとそ
人さまあるもちの屋つきのくともとるくさめなりとう
なりやいまてちくなりとれはとみもいるく

さめなりとうの源氏の紅紅へく 細 えう門今そ
をなりてはくへくとも 河 えう門今そをなり
出て乃くよ出るくのるれる浦と 行吉 物語
の物をなりまてきいの中くあつく 孝家 源氏は海の紅
てくとう桂宮のはきるなりはんとうとひはくとも出いとそ
常にのやうにとの物也又源氏のはさ海はめちるくと紅
みくくとくくやまや 細 はくくの人くも
大くくの宮をもはくきはとにはくのるるひはをてを
をくくはのなれ 孝家 色ハはとのくくと春陽の世界と
もの思くるとも物とのの宮をもの面白はとに源氏のはくく
吉仏紅との物也本家さはをてと宮とて社の来はう
たのくとるれくめ氏くくう 細 九月廿日くも
とるくるくはく 宗 源氏問 上 とくくはくくくくくる表とと

なくさめたるとの詞也　細　歌院はまつりごとの時やうの題
うたはくはりなどを表のもとにかくなり　はひ
るとをこひ出やのことさしは　於家　源氏乃公宮へ
ことゝもをこひ出やく權へやとも
幼やまくこの出給やるはまつりあはさめうちにおはつ
つ帝こゝろとくかんうしまつせたく朝書とをのあはれ
ある花ことの中に朝うかれたにこひまつられて
海ゆるたにさうて白ひもそこにうれるとあはせ
て　於家　源氏權宮うとうう行ての袖さめぬへ
とくかんうしまつせてやはさめうちにてまし海
せし早天はかうしあはとわくはせ　細　是はの詞
きれ孫の　於　源氏よりも權宮へ白ひもをあかんうやまる
と行て帝せらるくとの詞也

帝こやうのうしに涙もてなすに人白うつさはらくはりて
家　源氏うるとの人乃詞也　耶（イヤカ）をあひさはらくさとあ花
はもてなすとの詞也　細　人の詞也うそくしを蓋か
ゆうたりひとあるうたやうなれとうひ連かさはふ
もうかされてアはるやう
うろてこいくこゝろくはくんを袖くくされと
家　源氏の西海乃ちゝ而目ありしとハゝくはくはくん
と袖くくはとも　ちまとをとて歌ひり
乃ゝ行の家兵くまあ權乃花のはるとをるやまあくん
於家　源氏乃はうや式アゝの姫君ふ權なくことハ帝本巻
はうくくるとうまとをアゝ行の家ゝまあとハゝうた
えはくんのかうふくとをゝ家ほとをゝはくはぬとも花乃さ
うるとはやまあくんとゝくはは宮をおとくはやうなれと

さみだれのあひだ詠ん時ふるこゑとの心也 畢竟(ヒツキヤウ)あ
ずとと云詞也 細 源のあるあるうちにかんをもはふくし
あまをれと撞なりと第帝本をよみひ〜やそのくれこ
ととゝつるや下句のこゝろを撞乃花乃ちるとハほと乃見
物ちるとゝ表とゝひ行へさ〜や外をあひかんへことを
いとくあり
や〜ゝ乃ほものとを表とそるるハちるとハほゆ〜そるん
やとあん 宋 源氏幸(シンラウ)乃ほのほるるや
ゝ乃をちるとゝ宋ゝ乃ちるハ外をのまゝとゝ乃心也
花 ゝ乃をゝ乃のおとゝへとゝひをゝ見たるやゝつゝ撞の
花とゝ見ゝとゝ乃ゝ乃心也下の句よおとゝるひたるハゝ乃
心ゝへとハひんをゝり 細 ゝ乃やゝにやをゝゝ乃をゝつ宋
をゝんとも花説ゝ

おとゝるひたるハゝ乃心ゝへよ物ほゝつゝあゝくんをかんをゝぬや
うみやとおほ〜へんをゝをはをゝるをとゝるまゝるひて宋ゆ是ハ
乃宋 時色のゝゝみゝくハるをくおをとゝるゝ〜やゝあるハゝみをとあゝおゝ
ほゝゝゝのをゝゝるゝをを撞宮ハゝ乃宣
ゝ乃ゝ下のへををゝゝにハゝみゝるゝををゝ〜ゝるゝ也
細 ゝゝ乃ほゝのをゝくゝゝゝゝるゝゆへにハゝみゝるゝをゝ〜ゝ乃也
秋ゝゝ〜ゝ乃ゝ離ゝゝをほゝ乃ゝ是ゝあゝゝゝるゝ乃ゝにゝほゝゝあゝゝゝ
乃宋 撞宋乃宣教源氏乃ゝ乃ゝに花乃ゝゝゝゝハゝゝゝゝんん
と撞ゝゝゝゝ同ゝ〜て秋ハゝゝゝて離ゝあゝゝゝゝる乃ゝに我
ハゝをほゝゝゝゝ

ろうやに用ひたるハ稀なるやうも
みりうしきはうそくようをてと家あくやのこあるそ
於宗 光と高ようるとはきさたるうみをちるうへし源氏のは
奇に權官乃ちるとハるやうねるうんとあるようてて
の給ハるりうしきるやうやうまたけてを家あきさ
源とも 細 品とりのはりひろうちちるに盤若必衰のこ
ともちるとを思うそくらられて表ちるうしや光のちう
ものるやうやうあるんとあるを親あおろうへゆくみ紙
ようりうしきやをれちるうしけやや 光 權ハやうれさ光
やけてみりうしたはうそくやを無慢乃ちるうへるや
あたうけうしきうもるたとけるふうをたうくは
らんもあるを 於宗 源氏のの物やけうたるうもちるをれ
ともちるうしきたにをたうくるうるとも 細 いりく

にけうしきうたりたるこをあるうるうるとも
あををみひのうれちうひやうちるる是つきうりをけうしを
乃ちやるを あををみひのうを 宗 服者の用る紙や
是はきうしを 宗 をうをハそくをとうるへし
人の侍とを出ちるとにはくろうられつそのけるをハ眼ちるた
ことをつきしうまひをたみをはくゆるむことをあ
也ハこをけうしうらたうきうしうつはりりるたと
を地はうるとあり 於宗 光をハをうの乃他をの初めへし人
の侍程とハ源氏と權官乃うやを面産ハはくろうひてと
うるたやうにを出まひちるをとを後うられをはくゆむ
ともをちうふ紙四ちるゆるむことく眼なた
ことをまひをるたみをゆるむことのをとやけうら
にまりたうをとをとを初つるをれはつるをきるれはうをとや

式アウ侍の男ども又ものもとハ源權の又さをとりてそれ
を後ヨ式アウ立まひ姫ハうるまりさとの男ども
ゐるもはなさくしうるとハ筆ものの物也 細萩ゐ地也
くやうの孫養ものとハ人の所とくにあくうるもるて
あくさるもあるもの地をもハ裏あるもと思ことを
後ヨ物うるを侍て侍ことのあるもものもとのあるもものと世ゐる
のくゐ也
立くうう今侍ことにわうくきゆ又うさるもとみけるもこ
とくゐをとるもとくむくうる 宋 源氏の西年たもに
侍のゐるもてみけぬと公ひ行くもむくにうりてく又
くさちとくゐも 細 品と細会ぬやうに公行くもと也
もてもるれぬ侍もくさあうゐ行くもてもゐるもとうて
えやむまくゐはさうるれい 孔 右ようと權宮ハ侍をもゐる

とももてもるれてハくゐ行ぬと也ロ行くうもゐること
ハ公会ゐうくう年侍ゐうとの物也 年 權の源ヨ一ゐヨ
もてもるれもとくるもかうくゐ行ぬと也
侍ことうてうゐやうにゆもくゐ行ぬと也 孔 侍ことにもこゐり
てとの物ゆゐくの侍て不及ゆ今をゐうもゐ行くハ
ままものとくくの行くさとの物也
東の高ヨもうるれゐうくてせんくもむうくかうくひ行
孔宋 二条院の東高也ゐうこに引もれまて後院の高也と
めてくやうみもやうあのまを行也
侍ゐくゐ人くれけくもあくぬさものくとそこにあひさゆを
やうるもとハ行やまるもとをうつくめて中ゆまて 宋 權宮の
女房をのくとも侍くもあくぬさもをハ源氏行ゐる孔
人ゐ侍人ゐひさやもゐるゆくハ源氏ゐはこあくさゐり

をあやまちつゝ
宮ハうのそこにそこれくゝ
してそこれをおもひうるへきはうゝひおほしみてそこれき
本をまつをたゝはくてうちとのわるをくさぬをとるゝし
そやとゝをあさゝんちゝと人のおもひをそこゝうを給つう
ちゝをを給へきはくゝそこゝをもをれハ 或宗 權官ハ古うゝ源
氏をおほゝそこゝうれゝうゝも今ハまゝて雅をゝひあう
源へきはゝそこひおほしをと權官乃源をひそけ
ゝ氏おほしあゝあゝ本ゝはをゝ出はゝ
を家庶幾をゝ源やうゝをゝたゝをゝ
うをゝをたゝ品と權ゝ奇ちゝそこゝ
ゝ思給權ゝの品也 細 源をゝと年ゝくまゝ
ゝをゝきゝてをゝ給ゝ也

ゝゝゝくおゝゝ源ゝを人をを 宗 源の品也 權ゝ名
ををゝをおゝゝ品也
世の人ゝゝゝをゝ給ゝゝをを思ゝ給
或 源氏をはゝをゝ給ゝゝゝにつをゝ紀をま
をゝゝゝ

さいのうへはくさくさ行てさつりとしさやうあう
むしるもはくそをてうてあはれ物のさうさうとあつりそれ
とうちつをにめとく先中さく行よはくくさるとしまへうう
もをあくうれたるもをうくうくさめくしさあくくあうくん
ことはきまるくさをつれよふひるくくひうんよと
たいのうへ 於宗 紫上あつりそれこもさやうれことのあるハ
うくし行そぬはとにんのさとさやせとこもさつりくさを
池の三行くう行よはあまさしはめをつきて源氏
をんなよ嫌よくあるくぬはるもこともさうえよ光
行まて三行こをとはまこをのやうにわ言ハの行く
うをおとろき行もを 細 はきくさ源もさうえちる
と我ようもをうを行ハはるも
はるもくむもちに物くく行へと 宗 紫上ともさうつ宮の見女

女ちるれハ同節とも紫の物も
樗ハ源とはとこをくまくハ同節とふくりようそあう
ぬをとをくくハあまをとをろ物も 細 宗 説同
物をこをにもくくうるやんさとをくやくし行ふと
宗
樗ろるもハ此行紫上の物も
はんふるとうつりあもくつをうくもあへいうれと年此の源も
てたのくちをハたちあくあ物かくるくはもをうにあくひく
宗
樗よ源の法ぶうつりてハとも
人をとくあくまんるもるとへさまをにあ物くあける
於 紫上ふたちあくあ物へうくあくひうるにとくをうれ
てハふの心をるをへ 細 紫上のあるハをとくをうれ行へを
やをちう
うれをををうれをるれはまをみををををてをを行ハをとを

宋 宗とを一向よしと給ひたるとも
いと恐ろしきことなり 宗 人ちなれ行くるこゝろの心ひね
なつかしうさかしくそはあるべきとさ侍るに思ふこゝろ給
細よ 於宗 紫上は親なるとうとましう人行ひ給ふ源氏の高か
しく行へは年ごろ乃ちひよわなつかしきことみくこと
そはなるもいたう給へるめと侍宗上の心也
ようやしきことこそうちうちなるとみくうしく給へはまめや
うにはゝくとおもせたまふ 於宗 ものを侍り
なるもとにてそ給へとの給へ光は源氏よりの給を
つゝと思へはこそよりくしく給へるめとも 細 ものを侍りなる
とてそ也
そゝちうちうなめうちにうち位なるまゝなり 於宗 源氏
のはさ侍也 細 むこみくに侍なりとも

紫

紫

細 ものを侍よりなれとの心也
やゝ宗 はゝ人とうさ給へとも 宗 權への人とやゝ中とう給へとも
細 うちすゝのひゝろやゝ給へとうとし給也
きに人のことも心ゆるくうるましくさあり 於世中人
ものとはなくとはなるに給へとて乱ちつゝ
これちきのことくの給へうとましきとも人の
ことはなるのく給へとも乃敷也 年 給也 細 紫上乃
心也人のつゝまることは虚言(キヨゴン)なる給へとも
きゝさとにうすめ給へとうとましくそのこゝろひきこと
うる給へ 細 ものをみとゝを給へなるとは宗上の心給也
名は給へうんわさるとも侍るとて侍へくしきにつれく
と知りあまりて 宗 蔦雲うくれ給へ桃園式アつるを侍
紀男(タカヲ)に祈わさるとも 傍正(チヤウジ)せるとも十二月わうるれ

く常なるべき時なるも神・皇紀 細 孫国の数は十
一月なれども神なるも停廢(チヤウハイ)なるも
女の宮は皇のちなりきさいなるは雪うゆちりてうんなる
さそうれとなるはつ〜きさはとになれあるはそかくといよ
いよたきまあ給て幼とにもさしうう〜給つれも
笑 源氏樵(の)幼みくは五の宮(へ)法師(ぬ)へ〜
いとく幼よりうん人公々をみこるは樵宮乃真女子(ま)を月をり
はをそうにまうるはやたるきさこし給女五の宮乃ものやすく
し給つるとをうしひ伊のこにもんとてはいの給つれと
於 紫(ム)はよ人女五宮(へ)法出あ〜むとて宮のものやさ給
よしの給やるるとやとはとてはるの
月をもやるを給つる 細 紫(ム)はよ
わうえをもてはをひまの給〜〜〜〜〜〜 細 御石姫えも

そそあのそ〜あ〜ぬを 於 紫 源氏の紫(ム)はよ乃樵宮し給
うとちをを不審(ヒン)まよひ給や
乃やし〜をうん〜給つるへきはられはをもるや
於 紫 源氏の紫(ム)はよ結るむひ光とたさ給て伯うを給
親や乃樵乃侍(ケヒキ)色をも出(モヒモ)羅(ツミ)をもるややへは事の
源氏とは〜のを給をとるみくるとも
をふやさ安乃あまるとあるれ乃てるはさるるみやと
てとををくをとまを〜〜るをはやて給へを 於 紫 系(ハ)文(ム)よ
羅をも〜不淦乃遷の怪燒衣の月てるを紀よてを法
〜〜をもうるるあとやはうんとをるを
美(ミ)酒(ケ)敷〜給とのことと緣とくとをうう
〜〜るとやる給へりとをいりやうのことをんの中たるうと
をはは出をとしての給つるや

引歌 浦とわの海士の塩焼衣別ゆきをいはくらさはとやまとやまとしんん

あれゆくこゝろをとにうれてとはるるとそれとそうちそ

ひそてゝ行つるはんをてゝ出給ふみちのうきれと

在家 宗上の五参也 源氏の源氏乃和とうきて出給うれと

はるをとゝろるもの給也

引歌 あれはやはるはあまれ塩焼衣まとゝ絶るこん

宮よはせうそこ中のこ給てゝ給ぬ 在家 源氏女又宮へ

御出あるへきよのゝとゝやゝ行へハ宗上ハ月ん給ふを

まとと立出給ぬへゝ 細 女五宮へ氏々うゝとゝ系へ

さゝゝうゝ給也

ゝゝとゝるゝゝゝ

れ 大内うちまゐり給ふとハなやゐうえ出給ふとハなやゐうえ出給ふ
のたまをゆるゝ給ふ和ゐ人ゝとの給ふとゝも
細 源の朝臣ゝ内ゝのありきたまのうをれとも式
部ゝ宮ゝ れ行てハ御ふそく給ふとゝもとる元ゐ
と意(イ)義(ヒ)とのつく出給ふ
もゝの宮ゝ乃御ふそくゝ物ゝ給ふ式ゝ宮ゝり
年ゝをゆゝりまゝつゝと れ源氏の朝臣女宮のことゝ御
せんの人ゝの給ふ
今ハ源氏ゝ朝臣ゝの給ふもあるゝにいとかゝれ
もゝとゝ人ゝくゝゐもの給ひをゝと れ女宮の式ゝ宮ゝ
成給ふ人ゝも源氏と御給ふとの給ふ人ゝもことゝゝとゝ
いそやゐもゝ元ゐ人ゝの御ゝりゝ元ゐてあゝゝ出給ふ
しゝゝゝゐもゝ出来給ふんゝゐもゝとゝ御ゝやゝあゝゝ宗ゐせんゝ乃ゝく

の御ゝ給ふ色のゝゝう源氏乃御ゝ給ふとゝもゝゝくゝしゝゝとゝゝ
美一乃御ゝ色を出来給ふてゝとゝゝゐゝやゝくゝゐゝ 細 御ゝ女人
人ゝの御ゝゝ
宮ゝゝ 宗ゐ宮ハゐゝの乃桃園(モゝゾ)の宮中をゐゝてゐゝり
細 女五宮ゝ
御ゝゐもゝての人ゝゐゐ元ゐゝれるゐ人ゝとハ給ふんゝとゝゝくゝし
ゝれゝて 細 御ゝハ新(サウミ)人ゝの出給ふけゝゝ給ふ御(ハカリ)給ふ
元ゐゐゐゝゝ れ西向のゐゝゝとゝくゝゝゝハ結海
乃ゐゝゐゝ
人ゝの進ゝゝ出給ふて宮ゝ乃ゝゝゝゝゝゐ御ゝゝゝゝゝゝあゝゝ れ宗源ゝゝ
女宮ゝ人ゝ給ふて御ゝ宗ゐ内ゝとゝゝ
ゝゝゝとゐゝゝゝゝゝゝ

はつりとさしをもちる事ひうもくきゝてとりんとも
えなをやしこれ 孔 落暎（文永元年ノ誤カ）出来世俗ようすゆるうるとこゝ也

わくくやをゆるうゆるすや 細 うすをれすきゝ也

平宣神也

これうるとかの花のこうてうきるれたるゝ人しもはくやをひさて

宗 桃園宮う芳行て人をくゝ所也

ゝやうのいとくくさひうをれてなるとうまつるとあられ

とうこうめんさのふくやはをもとに 孔宗 鎖つとえ

あををしてうゆるとこはくとひさてと鎖のかさ

ひうるうけうや 鈎（カギ） 鑰（同） 細 門乃鍋のうちてさひつさたる

ゆり 行かう馬蹄（ケイテイ） 出易 鏃用 稀（ニウ） 叫 鏃（サイ） 滋（ニウ） 鏃用 白氏文集

ケイ ゝ行のあるうゆゆをゆゆるゆるれ 孔宗 山河ゆゆこの流を

之源氏廿七巻みくくひうゆるゆるうり孔ゝ廿一

巻やまとをゆゆ年ゆれゝゝをのあるゆやゝ

孔 大方久くゝゝとゝをゝひうれゝ孔ゝ

きゝゝゝゝゝゝのあゝゝをゝりあゆたるこのゝ

やゝゝたるゝてゝのうゝりゝるゝゝゝひ行ゆ巻ゝ

ゝゝたるゝゝやゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

乃宋 權宮とをもてひ權乃奇なるとなそワてひとひ

もとをもや畢竟世とをとひとるとなるやいのあく俗

乃ひとをくれいその間をくちをとをむ奇なるへ

ひ乃まるみ遠うもくしをゆれまるあるさとやあ遠一塩てひそ

び 源氏奇 やうみをひ乃まるみあれあるうとやこれと

乃をなれを雪あるあ乃里とけをあるを

毎ひをくをひをうらひくうるとなひ れひをきちうて

ありきとこをを五者也いあく俗乃れひをくきとの乃也

宮の俗乃くにまん乃出絶遠を行をあるをものうこハ

とをなをうちひめをうて俗くし行へと 文 宋 [illegible]

出乃てをはとうひ神ひてきに れ文宮ううと行へや

源氏乃俗耳よひくあるを

宮をあくひうち行てうひまうひをくひ伽れいものも

え宋をくやくもとの行ひ 宋 矢伸 彰猛示紀

俗とをあくひひをとうをくきをくぬ者をれを

吮鼻 鼸 同 鼾 同 源氏のひきをと宋をうくひ行を

ぬ中を也

うをくひあくをとを乃行ひんとをるに れ宋 西臺へ出出

あくんの下ひをれをあを五宮乃ひきをを行をとうをにに

してやを立行ひんとをるを也あくへやその乃をうをに

や西臺へ權行を也

又いとをあくをきををうを乃をうをを行へ

宋 源内俗をを也

[illegible]

うこをれと　仍　源内侍の局也　ハかてゝ　帝をもれとゝも
細　はゝとゝ　ゝてゝ　ゝる　ゝ　ゝの　初
ゝゝめ　たゝん　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
源氏物語　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝの　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
仍　相院也　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
祖母　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
細　也　細　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

そのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
源氏物語　細　源内侍の局　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いとゝもゝしくひとしてはくるゝりかくるゝまゝにて北さ海よりて
ゆてゝくるゝもをかんにたるにつさゝひやうるゝてつゝひ
つさまるにたゝはさうゝ　宋源内侍の話也　もゝもゝこゝろ
はにつき　細　ゑんのはゝ歯落てにのゆゝゝたるゝゝも
うちさきんやゝはゝゝ　宋年みとゝゝゝ紅色のゝもゝを
ゆゝ　細　されゝとのゝ也
ひゝゝはゝゝにちゝゝゆゝゝゝゝゝ　乃宋　源内侍
年を歌給也　引歌　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人のうゝをまゝてゝけゝゝ　寿　式引寄ゝあて公時も
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるべきものとも
やうの事とこそ侍りしかども
多くはしらべ侍りしかども
してもしるべき人侍らざりしかば
も　源内侍ことやうなる人にて
侍りけるとも
如行とのの下の源氏やうの
物語とかやいとこまやかに
なん　源氏のものがたりとは
つまりて源内侍ばかりの
人とぞ思ひ侍りしかば
世中の不完とぞ
侍りける

細

なりひらやく
侍うの人なるべし　源氏の
の心をえ
侍りけるとぞ
ものがたりの
ものがたりの
侍りけるとぞ

侍りけるとぞ
源内侍のことを
源氏の
一言とは相違
ものとも
親とぞ
やうの
親乃親とは祖母
親乃親やうの
親とぞ
源氏の
世にても
こゝの
きとも
源氏の
侍りけるとぞ

細 ちくさめての給へ後世もうて親と言ふ事ふかちやうとも
今のまゝ考うるや今の
ちかぬ一切でみたれ
ふかくしてうるとうれやいとひやうし
ふかくんとうくやて　西行月て　細 貴僧の法ふくも
ひこ阪のさまはれうさひ月さくくくすくくにはれる
雪のそくよあひくちくいとはまくくみさ西ちう
原氏の法ふと知つて月ふくしを行うをハいとひくりに
法師せんと一間二ふ行ふさひとも　細 芝ふくの貞安也
いとひくりかもくくを給へ
あうはる前くくふ月ふさくくも　某 源門修ふ事也
ようくぬ物ふ世のそとひやくくはるくくくくて
くくあん　於京 法師細を拾ふ物ふくくくくしたる
とくくひの月とくくくく

ご宮ちとの御ようを御ーそうじとも成あるまーくそうろ
ーせぶやうてやうーと世のすゑに　宋式アゝ宮の源氏は
八幡とはそを御ーそうしとたのふとうーをそやそ
ーやそうろ
ひさそ成はさうに行ふく　乃宋　法年のそうをたうせ
の御也　細　ひうとるとあるの也
一ーうとそうろくんとあ御ーてひうーふうこさうに成は
そうろれて　乃　新ようしとそうもの行くとあれハ
宮は一般ともまうろ
はさまーうはくーせ無せ行さすうに成ふく
ひうーそうろあうとそうそあーぬ人はくのはそうろとそ
ふ御まーさやうもつくうーえりは風乃ふそひうもー
そて　乃　源氏の御也ひすうに成ひうーそうろとそーー行

乃人傳は成ーあうる中ーくぶうるーをとも也
細　そうとうひうひうー行也
るーとにいて地そうはうをあはゆとそひうに成行り
とーのうひ行ひく　宋　ひとうしをうに成やうに源とのこ
ひ行ふ源氏のさ海也　細　此歌乃ふの面白
はまうさと言にうぬ御ーそ人のはーーそにそひうれ
乃宋源氏ふの也　若うると摂宮乃はまうに成ようとも
我ぬふひうとうぬ御ふそ人のの御ふそ人あふつーに成也
ふうーーのとうに行ひとそうるを　れ　をさうにすさうみや
引ふ　かまてふ人源の川乃源をやふーーやみとあうまん
細　河は引ふはまうさ作れと作て不可成ふふのの
ーうーをふうう如ふーーをとふうーふりとさるれ
そとに成とうるくうる如　三首乃うち可

同之元

[illegible] 細 [illegible]

[illegible]

於宗 權宮の迹とも我貞盛[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

引歌 大江乃家の山ちかきやハ人をもきる人あり
引歌 ちはやふるかみのいかきとかくるとは
細 ものしる所なりとも

せちかくちかきをもかくしひ所へとをもふにうあらん
人をあるかくしをもかくるうちに情をとれてすてはて
やをし所ふちん 於宣旨者源氏くしひ所さ海や
をもふをもふあらんやハ源氏のひをもぬ人をあり
とをとをもをき行しんとをとりをとたる人を
權乃情のをとをわたりをもさぬんをも 細 ちをぬ人
みをの所也
をををにををちをもををを

てきしてん　孫　源のんてを和うちに同ぶせてあううと
のんは地さんは彩くしきとも衛門の流をかうる
はるーおとさんとやそれとそうーせ地せたと
ひるつーを情はあうとと守くにあちをあうん
とやたくようそうれはみうるとはーうんとも
又人情のはいーんるとはうれはとにしてるさんと扶擢
のをするんー
幸はをつをはう罪ーあるとは　孫　源は立場へ後
ようとれなに罪はをうむとはいうはあるひとと
をはるーたてとやはに尼は姫後うんとのをるんー
細　孫　源はをへ経伝の張弧とるれとはうそうるまむ
をてをるとのをそるなくなて續後ーをはるも
源行をうひとをはるーたてと　細　出家ーを後へをる

とのんうまんをあれとんのはうをとあるさんとをうをう
ひ後也
鐵はうを源はるをーをもるてをるれうにはるんをあう
をうはるあうーをやうはんをうーはんてんのをうとるーやはと
はのんはうちはるあるさとあはるーをうるすんれうを源はは
ーとをーをもはんは源氏のははうやはにをうはの後をとせをる
ををうとをれをうをとをるををうはにをうーし
をさを面やをるくはるあるーれやうはんはのをうとあるうん
をはやあうはやをはをの道はるれをとんのははうをき
をはをはんをををーー後也源氏のはるはは又家あるを
あるはめをんも　孫　源は乃はうはるををうはるを
はをさはーはんくはををうはをはうはをはうはんはうはー
後ーて　孫　をうをを源氏は同んのんをあれんを後とも

ろうをかくや
やうくにわたるひとのこしをれ　家　めふたちてをとく
しうくぬやうなる物や
ほとうくしたる物　物　ひとへ　ぬ　服
ほとうくしたるあまこ物　物　ひとへ　ぬ　服
ほうていとうやうくを宮ろうちとかひうるありゆくまく
に　乃宗　氏は兄弟　系　系　みを　侍　なとやさとてを
つくあとをひやるをたや物語　氏　彰　ゆ
細　系　系　ゆ　ひ　氏　さやるへ
さやうをめてたさへの移へうをはくし実語
をたみるへをとうを宗ゆるを　乃宗　宮　有　とう　物　源
氏　兄　ほとに移へうをあるまとう　物　同　へ
宮中をうやうにうすうあるくくあるくくあるる
源氏へをてみるとやうれとをとれるみを

あり　兄　八　權　宮　は　移　へ　ほとうをふたるへ　細　源　を
は　あ　ふ
ひとへ　ふ　ひ　ふ　乃宗　細　同　ふ　源　を　心　を　を　を　ゆ
おとくハはるるもにゆ　ひ　ふ　ふ　ひ　ふ　ね　と　つ　道
るにはくくさのうをてくにはよ　乃宗　源氏　へ　れ　ほ　を　て
ハをるをるくハをひ移り　ひ　と　移　ひ　ふ　り　ひ　を
あくをひ移はひとを　帝　本　を　み　を　源　氏　の　ほ　へ　を　手
ふ　常　の　ひ　ふ　引　ふ　へ　ひ　は　ひ　る　ふ　と　紙　こ　の　ふ　移
やうにかへくるを
まうをてやくあへをにはくく　細　源氏のへ　帝　本　を　て　り
ろくくあとくくまるあてをやくくへくくをを
ひとをてくしと
帝ふをてくへの　ふ　あ　り　を　氏　ほ　へ　ま　り　く

物をあまく物語りたる世のあるもとくにかきたる
色雲あるつめ給ふ　孫宗　仏語をくくんをつきてかくえし
人の語をさ風とん源氏の家にとの給ふるうへ
答ふるさもあまてこ弥まさらんハ　我位位
内大臣よりあうえ位年とのの仏　花世中
の人乃心れをあるとこもうにこと年を尋て
ゆくし孫源氏乃仏也　細　源人の仏を孫
歴してこの乃ちくに仏ほまにう孫也
つまにこの位ひるをもくれをきを世のもとにをもはし
あるくるひるまくくんをつくくんをくくんをくくんせ
んをにまくうくうにくくこ二条院よりきくくの給を
　孫源氏ひるさるひにんのこと世をもつる世をとをれとも
とうんををあ物めくるあんくくをあんくくとくく

ひ孫をとも
あるんハくをとれをのこ孫　宗　孫ハされとのやう
みて源よりまくくの仏をくくう
あるあをと仏ひくくにひにくくきくくそ孫
無ひ孫をくくくくちこるくにくくくくん
宗　宗上乃ハ源のまくくくくくくよくくくくくく

なむ此はとのうちにまうでとをんなをくるまにおほせて
らんとしたてまつるに衣をのれと　仍宗　引入大臣のうしろをとられ
ぬとをく姫君へはゆるかさるをあま源氏乃ほうつと驚な
きをやうれ給ふと紫上のをんなをくるまにおほせて
くと權殿乃ことをんひるゝ給也
今はさらにとゝ此のうへにおほせを　仍宗　源氏乃初やうやと
八年をとゝ給へし給色のかさはをもゝしきさま
也乃ゝ對しての給ふ也
おとゝのひ給へまとまいと思ひやつるもるゝ人の心をみ
たてゝぬさ毎よ物し給ふてそらゝたをれると　宗　紫上乃
おとゝの行へとも源氏乃まに宮よりひ給ふをとハ乃ゝ和
給ふぬとやうひやつるもるれ也
まうでられあるはひゝうへ　仍　紫上の話をゝ源よりかゝるま

つとうるをとうり　細　源よりうれたる也
ゆきはくうひ給ふとゝくゝうもきてものをやゝ給ふに
仍　紫上の話ゝを源氏乃ひきはくうひ行へとゝくゝを
移り給さ毎也
いとゝくゝわうひ行ふるはゝうゝ宮ゝたるうゝをて
はゝる紀世よ　仍宗　源氏初やうにわゝくしきはゝる
ハ家うゝて第ゝせていかゝゝきぬとゝも　細　あこ
そかくゝてたる地をゝ也
かくまてんとうるをあらきさるのわうきやとうれるれ
ゝあ給ふ　仍　それき世よ紫上乃んをゝ給ふちきるのわ
さやゝてうちるゝめ給へ
毎俗よゝうるゝをゝ宮ゆるやゝゝ也しひうもゝかゝあう
それハとゝてきゝれたるこゝとをつゝうん給ひてん

宗 源氏の初やとりてしとくハ桃園の宮くれ給ふとて
ひ乃事なの給ふや 細 ちくみく源のひ出給ふや
なるうとうとうれく 細 春陽乃ふる也
なるとき給ふとくあるに 宗 權ハ源へなりうぬ給ふそと也
ちくしさ打ハたるあくて雪ちやまひる 於 源氏ち自
然物さしきけふハ又ちと乗せ給へハ權もつきつ
きちち雪ちれハけくハうくへ行とも
くうこと給まくくしものく給ふとくるれハうくたくの給
くくへるとく給てと くこと 細 春陽也
まめくしさ打まふもあくぬと 宗 光宮のことしハ行く
ぬくとや
めくちんあくやくもうまくへ雪の也ちくしさやハくくちち光
たくくあくしくに思ちくく給ふと日ひとひちくくあくく

くく給ふ雪のてくうあちくとはりたくうへなくとちくく
乃宗 權官人自然の又くくくく

花宗 河 こに人の心をとうて花ある宗よりるといふを乃秋の月を
色ちがへものゝ多きなりて面白ともや　面白斗ちう
端よりうつ色をつるもるまゝ　横そふ雲とあるをとゝ
雪ゆうへたる月と乃作りんと家隆のよるもやうれ
河 いさ　いつさ　ゆくて行るあるてんを月春ゆ花ゆをおくり
この世乃ゆまて乃ひるをされ物りるをとゆうれをものこ
らぬ物をもれ　宗 来世極楽乃ことまてをひやうる遠
もをさもうしきをうにいひをれをんゝ人の心あをさうをて
ひ 清水納云う松尾の心あをさを　花　清水納云と同
河 乃人ゆくいとをあるをうをゆをうをの月
秋水納云いををさもうしき物といひうを式アいうるれ
物の多うむと云うゝくのかをれるうや、
弄 清水納云う松尾の心あをうをの月秋とゆ初をうを矣

むるとゝをるを西行ゆ聖節（タカミラ）を乃と云伝あり
宗 私記（アクヒヒヒヒ）松尾の心をさをうしき物のうちをしを
をゝをまれゆをさを結乃ハをるをくゆうをひとりをうを
乃をゆをされたるに為をれをうを為載のうををゆをるをう
河 遺愛寺鐘欹枕聽香爐炉峯雪撥簾看（アイジノカネハカタムケテマクラキヽカウロホウノエキハカケテスダレヲミル）
一條院雪の朝よをる物をを雪ゆくを有々んを作るを
をるに清水納云法花よりひをるうほうをるをとハ
さて沛簾とをれゆををうをるを簾さをうをさたを
よ河の人ゆをるを
面をを水をいとくくゆをひて池乃うをうををゆをを
ををれよ　宗 氷（ミヽリ）て雪のうひををゆをうをゆ
ゆをうゝ人をうて雪をまをうをせをを結ゆ行をゝ雪をる
海をうをうををを乃ををゝく　宗 雪園

ゆはさやうにまれたるはうくつあこめうれき
ゆはさやうに　於　そ中ゆをおとちすーき拾也
はまくのあこめうれき　於　なこめとんてうりうし
をさたるさ海也　幷　一勘ようくうさんとき拾也
とうまきといねさてあこめうまきたうのやうこ
細　うへうくうこときうへさを松るにうとて脇ーたる
ちうへー
あひたとをちるたとのるをとうこあうこめてうるに　於宗　袴乃
常ちうへーわうこのはとうるやーそまくれをうこを
ゆへうるうや　細　袴の腰ちるうへー
ちうあうあまをうこれをたうにはまーてめてちや
うこれををとうれうるはうをも
ーたるいとゆさやうちうり
ちうさ色の雪ゆ髪れをうへあひたる童女（ドウニョ）乃さ海敬へー

ちいさたはうくうたけてうろうひうくーあにあゆさるをとをお
くーてうちををうれはうくーゆあり　於　ゆさあうまりたをも
をとゆこ海ハ禅閤（ゼンカウノ）流ちむハ師流也　幷　花も濁る也
河　師流云ゆこうをたる也　流乃頭ゆかうへうれ妻戸
ゆあて分をとるをにうくうあとあり一流ゆ乱ゆこ
花　童乱也ゆさゆけちあとたうーゆ家花拾ゆをこの
ゆ　幷　ゆさるれ祈也　童乱ゆ世（この字）ーゆ也りうう
ゆへをのはうさるれ分ゆるゆ海ーたる祈也こ　細同之
細　女ゆ敬をゆうをるうをを海をうこちんたゆ也されを
ゆゆさるををゆうーあゆうちををたるゆ
いをははゆまうつをうれをうをををーうこうろ
さてううゆめ　於　大ゆはゆくゆまうゆちんをかをへゆあるさ海
ゆう　貪生（ダンセイ）　遊仙窟　和　あくやうるる也　細　かをへく

大ようもうろうけんとも云る也

四くゝ人八京のほうゝ也ゝるとに四て紗をやとる事にてゝ細

孔雀ゝゝゝ

あひのわくるまつをそこなはれいとをと
とくもてるゝ行ひくこゝろ　紀伊ゆきの
るのハあるりしかと　宋中宮乃ゆきるゝとゝ和給源乃ゆき物
ゆきもゝらひのほとゝ今ゝ　ゝろやゝ紀物みそ和給ゝたりき
ゝうちあのゝゆゝて　宋中宮禁中に法まゝらひゝ
　　時ゝ源氏とハ物やゝ紀物よりゝゝりしゝ
ゆゝ和ゝゝとゝ法わるよつきてゝもるみるゝゝゆゝゝゝひし
に　宋中宮ゝ源氏ゝたるひようち形ゝゝゝ法ひゝゝ
まて出て法ゝくしゝゝゝゝゝ法ハゝゝゝゝゝゝひ
るゝてゝゝゝゝ　宋一うどあることはみゝゝゝゝゝゝゝゝさ
まゝとゝゝゝひるゝゝゝゝみてまゝゝくしゝゝ　細ゝゝゝゝて
あゝゝくしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ　宋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ法ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をそうてうつくしさ弟うひとく　於宗　紫上をまのそんし
くもとくたるやうにはくハ源氏のをうれよの給ふるへし
かとくしさのをくこそ給つるやうとうとく
うとくしさ　宗　ゆかぬ紀　ゆ字　又廉こ
花舞院の御ぶさへまつ　細　光ふると撰舞院のうをとの給
ひつくしさとにそみ申ふ　於　撰宮ハ一廉ある物とへとも源ハ
はめ給也
ひつくしさに何と色をるくとゆかしあそをまれと公はは
ひとをくへさはあくるとこの二ところやせよのこう給
をくんとの給ふ　於　ふとをとをくくそをくくとをくへるとと
つまうはをとをはうひのそうくさハこの撰宮そうに
のこりたるとも中宮御身はは男にのをとをそれよきを
ハ何ふるやの物也

内侍ハくそをそうくしさゆくくしさかるいひとはよ
さうと給つう　於宗　紫上の詞也　臨月和ハるゆ也
あさくうれるをちるとをてをそれ給つうをうへの給と
於　源氏と内侍との給ふをひるあるやうにやすうをて
をそれ給ふとあやくをとあ源をとをとれとの給
紫上の詞也　遷を氏へゆくるをとあはめをハ給也
あやくををけるのをれとの給へを　細　源とををとう
給のへ廉くをとも
ひくあるをくうかくちうをれををくあををひをさハ
てつへをへうう　於　源氏の詞也をあてあるを内ハをうを詞
也　於　源氏の巫女也ふむの天をとををくくをとあを
つを給也
ををををつをとをくくをやくをとのあはくうれまをて

うちあつまりたる人々の年はいかばかりにつもるらん
さるべき多くらん　宗　古郷の元来武人ゆへのことやまひくさ
まして内裏のくらいはなきをもてなる人なれば年たけて
まことにやさしきことのおほくなんとも　細　我も恨
あつまりあつまる内裏のくらい梅殿なるまつ
人なるとハきこえれさきつもきさやひしたるもとの殿にて
むの君乃殿なるまつもとハ　殿宗　源氏
乃殿や我をたゞ人なるとも川めあつ山さとくく
やしきのはさこと　細　家　殿なるまつてさ
色あやまちたるものをこと
このうちもあつまりあつまりめ殿山里人にてハあつ殿なるやく
うちすれたものなるもとえつ人なれと人なるとちとなる人をなる
まことにひあつまりあつまりもとにかんをもちて殿　殿宗　四位なるとの

とと源氏のうちとなるやく人なる物なるとハ
なるやくハ殿なるとの殿なるとひまなるとあるとの
さるなれと源氏乃殿なるとあるとの
なるもちて殿なるやくの殿なるて　年　四位なる殿
や　細　色なるやくの殿なるとはめての殿なる
いつくひなるたさまたくさんなるとなるたるとくくれたるとくくれ
世なりや　殿宗　不思議なる人なるとなるなるて可然人
なるとなる殿なるとなる中なるとなるとなるなる世
なるとも　細　源のあひ殿なるとなるなるなるなるなる
人なるとなれとなるなるなるなるなるなるなるなるなる
東乃殿なるとなるなるなるなるなるなるなるなるなる
世　細　花萼里也
さるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる

とのの御やしきに花薄生ハかんとうあしよりと今ハ宮ゑ姫人
宮也 細 氏人の名なる事なるべし也
作る所ふはきをての御をきをんなとのかんそめ〳〵こうの事
ちの〳〵やうに世とはくまり〳〵をしなはりひあるもあるよとそこ〳〵
あるこにうもうへ人をもあるこもあるうゑ義とうひ行ちちと苦
とのの御のこうちとしに和文の御ハ人ハ和
しろ〳〵女ハ 行 宮心ちるんをうへ人はうろうつやみそめ
うるとしてゑ同御とや氏殿源氏の御ちるへ〳〵
氷とちの石こ此のつハ行ちやこ宮ちむ月乃うちうちの所
行宮 紫上ゑのやを乘乃さ所御をてかんるへ〳〵ハ行を
石まりと行ちやうてこ所ちる月乃こうの事ちこれ〳〵さハ
ちんこうれ〳〵ちうこやハ月のかこぬく女へ〳〵 細 南殿
のていちうとうて宮こちく猫をたちこ事也

とうとんつてむこうて御こうの行つうかとうる知ちくこう
御こうの事ちう 宮 紫上乃所ちを也
こうしこうあるやこの 行こん所〳〵ハ髮のさ所や面やこハ面の事
いとちうとこいこうの御こうや
悪中ゆるこの面うをにの中やこ宮こ事めてこうをれを
行 落中乃こと源の御こと出給也
いここうとこ所御心をとうをこ〳〵つへ〳〵とこれこうちる所
あるに 行宮 權へ源の御こうとうひ給へとこ品との紫上乃こ
御こうこにこ御こと所こうをこ〳〵つる所こと也
細 もとこうと紫上と宮給こにこうこてハ御こと事こめ給也
この儀ハ宮とこうこうこと又こうを〳〵事こ給也
こうこはめて苦悪〳〵所悪こもこに義とここうることれこうこれこ
行宮 源氏殿のこうこなつめて苦こちうるこ中ハ御こ中宮こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃浮ぬるう
ものをさに成くさとも
に　於源氏胸（今字）とくりをさくく作ちり
ぬまとゝくしくあくしとる
り　宋　亭中みもあるるあ
うちもんりうてゐ　宋源氏乃浮ぬ
くさて乃さ成也　細　宋源氏乃浮ぬ
あるや又源氏乃るも浮よ女えゐれる事にくとお
ほそに中繍さうるて
と仏れる
をて初めわえさひきふもをゆれる事れ
於宋源氏寄仏を浮也中宮乃事乃浮ぬと
細　とゝいりゐ和をとゝ中仏ゐ仏和とゝ也

中くはうに仏ゐ中ゐ和ゐ浮ぬをに成くはうひくはうと
をちくて　於中宮乃浮ぬるとゝいるくゐ也
ゐくに乃をさやうるとせさを行ふ　宋　寺（テラ）へ告（ゼンゴン）相と
も〻行也
ゐるくさめ乃を行也をうゐ行るもさて和ゐさるう
んゐ　於中宮の事ゐ乃ゐ行ゐ也
わくをひを〻行ゐ乃ゐはをうを中ゐ行ゐ
ら　宋中宮乃はゐるをを〻
仏ゐとゐをくて　於中宮寄乃ゐとゐゐと八法（ツミ）罪
ゐるゐ也
この世乃ゐうををくゐ行八法ゐんと　宋　又濁悪（ゴクアク）世乃事
ゐるへ〻
和をゐくゐ和〻ゐをゐ

仍源八幡とうく思案し給ふとも
ものふわさをしゐたる人なれ世界よりあそびくらんとて
ひやうしにまうて給はんとふしもうりやうくちやちやはくく
とおぼしをうの浦をめぐりたてくちるみちさをし
給りんさ人をうめやうしつへし　仍宋中宮のりやうの浦よ
仍ろもとをし給くらゐりますんとうつひき
をしにまうてくやをいりやうみてうをろひゆきて
を罪みをうるをて源氏乃ろうを給也
うちうをと浦公のおみておはををやはらんとおほしはく
む給よ　年五上兼くらゐひ乃傳の奏しつるにうて
ようの源氏とをの光をし給しはをにはよく落をの浦
ものををくせををしとも　細同之
わくこはををとをうをを給おるすくちら

をみをくをを
さくたちてをくろくんとおやせん乃ろてちれをのうて
河一ニ池中ニ花尽ニ満ル春ヲ惣ニ往生ノ人各萬年ヲ座ニ乗ル花ノ
臺ニ待ル我ヲ　同行人善導五會讃
るれんをくをくふをよまりせてをうをあるうの浦みやをとうん
宋源氏歌三瀬川をわるをるをる三途川のをとをうの中文
ををくふををよまりををて行ととも其うををとこあ浦みを
をとうんとのむをるんくふををまりをあみちをのん
をりの細いやうにをくをひくを行伝ととをれ西不ん和
くれとも水をうを河をうをたり　仍源河うをを奇人
ををて見るんく
ををはをををうをををるとをや　仍宋御の式アク者はを